

宮崎県総合博物館 第2期中期運営ビジョン評価表（平成27年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…達成できた 3…ほぼ達成できた 2…あまり達成できなかった 1…達成できなかった

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

(1) 調査研究

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策		個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①調査研究方針・計画	達成率	100%	概ね75%	<ul style="list-style-type: none"> ・地区を限定し複数の部門において総合的に調査研究する「総合調査研究」については、平成26年度に県南調査を終え、平成27年度から12年間で水系別総合調査を実施することとした。うち平成27～30年度は、小丸川水系に関連した部門別テーマを設定して調査研究を行うこととし、初年度の平成27年度は、主に情報収集を行った。 ・学芸員が個別に研究テーマを設定して行う「個別テーマ調査研究」については、2～5年の複数年にわたるものや水系別総合調査の内容を兼ねるものなどがあるが、中間報告を含め、研究紀要にその成果の一部を公表できた。 ・平成28年度は、引き続き調査研究の時間等の確保、外部機関の研究助成金の獲得に努めながら、計画に従って適切に調査研究を進める。 		3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・総合調査研究や個別テーマ調査研究の成果を研究紀要に掲載し、さらに館の展示に活かしておられることは大変良いことである。今後も是非この方針を推進されたい。 ・調査研究・計画の内部評価の実績が概ね75%とある。これは公表が一部に留まった点にあると思われるが、小丸川水系に関連したテーマに着手していること等も含めて考慮すると、ほぼ期待どおりとする。 ・外部機関の研究助成金の獲得については、館として積極的に取り組まれることを期待する。 ・調査研究方針・計画の達成率はこの数年75～80%ではなかったかと思うので、目標値または計画を実態に合わせて見直す必要があるのではないか。 	3
	研究紀要の発刊	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に、論文数13本（研究団体等との共同論文5本を含む）、109頁からなる「研究紀要第36輯」を発行することができ、本県の自然史、歴史等の解明に一定の貢献が期待できると考える。 ・次年度も引き続き他の研究団体等との連携を図りながら、調査研究を進め、各分野において新たな事実解明に結びつく内容の論文等が発表できるよう努める。 		3			
②調査研究成果の公表	調査研究報告会	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・職員8名が、調査研究の結果や展覧会企画に関する内容、収蔵資料に関する内容、映像記録の手法等を報告し、参加した博物館協議会委員や博物館等協議会加盟館、博物館友の会などの関係者と活発な意見交換を行った。 ・今後も引き続き、調査研究成果の適時的確な公表に努める。 		3			

(2) 収集・保存

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策		個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	638点 1件	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの評価項目のうち、デジタルデータの収集及びデジタルミュージアム登録数については目標を下回ったものの、資料や図書・文献の収集、資料の登録数については目標をクリアするとともに、全項目の合計数は6,800点を超え、目標を大きく上回ることができた。 ・また、動物部門ではパラタイプ標本、地質部門では串間市産鯨類上腕骨化石標本、歴史部門では森永家資料といった学術的にも非常に価値の高い資料を収集することができた。 ・目標値を下回った項目のひとつであるデジタルデータの収集については、次年度以降も引き続き館外調査を計画的に実施しながら、その収集を積極的に行うなど、全目標値をクリアできるように努める。 		4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・収集は目標を大きく上回り、保存事業も計画どおりに実施できているが、収容ハードにおいて少し手狭なようである。全体的にはほぼ期待どおりと評価する。 ・収集資料の整理・登録が大幅に進んだことは良かった。 ・未登録資料の整理・登録については、できるだけ早く完了されることを希望する。 ・収集資料の整理・登録が大きく進んだことを評価したい。資料、図書文献の収集も目標値に達している。 ・デジタルデータの収集数は昨年度に引き続いて目標値を下回っており、原因の分析と具体的な対策を検討されたい。 	3
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,100点						
	デジタルデータ (写真・映像等) の収集	5,000点 (年平均1,000点)	434点						
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	4,592点						
	デジタル・ミュージアム登録数	1,000点 (年平均200点)	117点						
	(合計)	(年平均3,500点)	(6,882点 1件)						
②保存	燻蒸	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・本館では、IPM（総合的虫菌害管理）の考え方により、全職員で日常的な資料保存に取り組んでいる。IPMの一つであるトラップ調査は、学芸課職員が毎月館内81か所にトラップを設置し、虫の捕獲状況を調査した。また、全職員で行うIPMウォッチングを毎月実施した。ともに報告書を作成し回覧することで館内職員への啓発も図った。 ・9月の燻蒸期間には、収蔵庫の燻蒸、展示室の簡易燻蒸を行った。燻蒸では、好天にも恵まれ燻蒸薬剤を投入している時間を延ばすことで、薬剤の投入量を控えつつ十分な効果を得ることができた。また、簡易燻蒸（殺虫等処理）により展示室の文化財害虫の発生を抑制することができた。 		3			
	簡易燻蒸(殺虫等処理)	年1回	1回						
	トラップ調査	年12回	12回						
	IPMウォッチング	年12回	12回						

(3) 展示

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①入館者数	本館入館者数	80万人 (年平均16万人)	130,562人	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の入館者数は、前年度に比べ21%の増加となったものの、特別展の入場者数が伸びず、目標値を達成できなかった。 今後はより一層魅力的な特別展示を企画し、多くの県民の皆様に来館していただけるような環境づくりに努める。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 入館者の目標を達成できなかったのは残念であるが、工夫・努力されたのはわかる。大変ではあるがさらなる努力をしてほしい。 平成27年度の評価根拠に「特別展の入場者数が伸びず」とあるが、平成22年度以降の入場者数の中ではがんばっていると思う。入場者の評価も高いので、数字にとらわれることなく、宮崎県民に意義のある展示に取り組んでいただけたらと思う。 入館者数については、博物館施設の努力だけで数値を増加させることはかなり難しい。この観点から、今回も、入場者数について単純に評価することは避けたいと思う。他の施設（音楽ホール・美術館など）との位置的連携（文化施設としてのハーモニーと表現すべきか…）も優れているとは言えない。狭隘で、やや視認性に欠けた感のある博物館駐車場の出入り口もマイナス要因となっている。これらは本博物館の立地が宮崎神宮の借地であることに遠因があると推測している。また、市内の主要道（国道・県道など）での博物館への誘導サイン（案内道路標識）も十分とは言い難い。また、特別展の「日本の妖怪」展は、入場者が来館前に期待していたイメージと、実際の会場の展示イメージの間に“食い違い”があり、このことは入場者の評価が数値的に低い（良かったが86%他よりも少し低い）ことに表れているようにも見える。もっとも、この“食い違い”について、「企画の方向性に誤りがあったのではないか」などと評価することは避けなければならない。この“食い違い”は、博物館施設が元来持つべき、啓発機能と深い関連があるに違いないからである。 	3
	民家園入園者数	25万人 (年平均5万人)	36,267人	<ul style="list-style-type: none"> 落雷による入館者数カウンターの破損により約3か月間カウントできなかったため、前年度比で19%減少となった。 平成26年度から実施してきた国指定重要文化財の2棟の保存修理工事が終了したことから、今後はこれらの施設を活用しながら利用者の増加に取り組んでいきたい。 	1			
②常設展	展示替等回数	年5回	12回	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は、自然史展示室では動物部門のアカショウビンとヤマシギの入れ替え、地質部門の鉱物追加展示を行った。歴史展示室では、考古資料の貸出しに伴い収蔵資料の展示を行ったほか、ロビーケースを使い刀剣類を計画的に展示した。民俗展示室では、佐土原人形の入れ替えなど、昨年度より活発な展示替えを実施した。 今後も引き続き県民ニーズに応えながら、展示替えを行い、収蔵資料の活用にも努める。 	4			
③特別展	実施回数	年3回	4回	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の特別展は、主催事業として、巡回展「第35回SSP展」、実行委員会形式で開催した「今昔、日本の妖怪」展、本館が企画した「美しき宮崎の滝200」展、5年に1度実施している「特選！蔵出し展」の4回実施した。なお、「岩合光昭写真展ねこ」を貸館（主催：宮日・UMK）で実施し、好評を博した。 来館者のアンケートでは、「第35回SSP展」では「良かった」以上が91%、「今昔、日本の妖怪」では86%、「美しき宮崎の滝200」では97%、「特選、！蔵出し展」では91%となり、来場者の評価は好評であった。 	4			
④ロビー展	実施回数	年12回	20回	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は、分野や担当者のバランスを取りながら計画的にロビーを活用し、全20回実施した（特別展関連展示4件、各部門の企画展10件、広報推進会議の企画展等2件、その他の団体主催の展示4件）。 	4			

(4) 教育普及

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①学校教育支援	学校受入校数	年200校	144校	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験及び職員研修の受入れについては、学校や教科研究会の希望に沿った受入れができ、目標数を達成したものの、学校受入校数、資料貸出し、及び授業支援については、学校への周知不足から目標をクリアできなかった。 ・今後は、校長会や職員研修会等を通じて博物館の学校支援の取組みについて周知に努めたい。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援については、各学校は、市町村単位の歴史資料館・文化財課と連携し授業に取り入れている。県総合博物館は、それぞれの市町村のバックアップ、相談相手という立場で良いのではないかと。直接学校に出向かれなくても、十分支援をいただいている。 ・教育普及活動を熱心に行われているのはうれしく思う。 	3	
	資料貸出し	年10校	5校					
	授業支援	年10校	7校					
	職場体験受入れ	年5校	9校					
	職員研修受入れ	年5校	8校					
②展示解説	実施人数	年10,000人	10,090人	<ul style="list-style-type: none"> ・展示解説員による解説を受けた人数については、地域回想法「博物館で思い出を語ろう」を行う機会が増え博福連携が進んだこと、特別展の入場者数増に伴い来館者数が増えたこと、展示解説員らによる積極的な声かけの効果があったことなどにより、目標を達成することができた。 ・今後も引き続き来館者のニーズに合わせ、適時適切な解説に努めたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の学校支援の取組については、校長会のみならず各地域での教育事務所主催や県教育研修センター主催等の様々な研修会等を利用して、さらなる周知を図っていただきたい。「どこでも博物館」事業は、準備・関係機関等との打合せなど大変な労力が必要だと思うが、今後とも各地域を巡回するような形式で継続して取り組んでいただきたい。 ・学校教育支援について、学校受入数や資料貸出などは目標値を達成できているので良いと思う。努力された跡が見える。(学校所在地を見るとほとんどが宮崎市周辺であるのは仕方ないと思うが、日南市、延岡市辺りからの利用も増えてくるよう、校長会などで呼びかけてはどうだろうか。)また、展示解説については、解説の言葉がわかりやすく、学年に応じて言葉遣いも工夫されていた。 ・民家園については、2棟の住宅の保存・修理が終わり、さらなる活用が楽しみである。 ・高齢化社会の中で「博物館で思い出を語ろう」事業は非常に良い取組であると思う。今後試行的な取組から本格的な事業としてさらに推進していただきたい。 ・これまでの学校(生徒・学生)に加え、福祉施設(高齢者)との連携に取り組み、博物館として新たな役割(サービス)を提供している。今後とも利用者の方々に、見て学んで楽しんで感動を与える博物館の経営・運営にご尽力いただきたい。 ・レファレンス対応については、問い合わせ件数が減少した理由として、展示解説員による解説の充実があげられるのではないかと。心に浮かんだ疑問をその場で解決できることは素晴らしいと思う。目標値を検討してはいるか。また、HPを通じて、レファレンスサービスを周知するならば、「こんな質問・相談に答えています。」という例も示すと、もっと気軽に利用しようという気持ちになるのではないかと。 		
③博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	38回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域講座について予定していた12講座のうち3講座が天候不良のため中止となったものの、主催講座数及び受講者数ともに目標を上回ることができた。 ・特に本年度は、初の試みとなるアウトリーチ活動「どこでも博物館」をえびの市文化ホールで実施した。参加者は36人で、アンケート結果も良好であった。今後も内容のさらなる充実と広報活動の工夫に力を入れながら実施していきたい。 	3			
	地域講座	年10回	9回					
	受講者数	年1,500人	1,844人					
④民家園の活用	民家園まつり	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・「民家園伝統文化体験事業」として、民家園まつり、船引神楽公演、正月準備体験などを計画どおり実施した。 ・また、「旧藤田家住宅」及び「旧黒木家住宅」の保存修理に関わる現地見学会、社会福祉施設と連携した風車フェスタ、団体との共催でレコードコンサートを実施した。 ・今後も引き続き、貴重な民家園の活用を図っていきたい。 	3			
	伝統芸能公演	年1回	1回					
	宮崎の昔話公演	年10回	10回					
	その他の催事	年6回	6回					
⑤関係機関との連携	職員の派遣・招聘	年20件	117件	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗、歴史、地質、植物、教育普及など様々な分野の研究会や会議に講師や委員として職員を16件派遣した。また、調査研究や展示企画などで来館した関係機関は18件、資料貸出し・借出で連携した機関・施設は83件あり、目標を達成した。 ・共催事業では、えびの市・日之影町・川南町各教育委員会と共催で、講座を実施した。 	4			
	資料の貸し借り							
	研究会への参画							
	共催事業等							
⑥博物館と福祉施設の連携	施設受入件数	年200件	233件	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から宮崎市内の施設の協力の下、解説員がコーディネーターとなった「博物館で思い出を語ろう！」を実施しており、施設受入れ件数の目標を達成することができた。 ・今後も引き続き、福祉施設による博物館の活用を促進していきたい。 	3			
⑦レファレンス対応	相談件数	年1,000件	588件	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会や部門別の問い合わせが昨年度より減少したことから、目標値を達成することができなかった。 ・ホームページなどを通じて、レファレンスサービスを行っていることの周知を図り、問い合わせがあれば適切に対応していきたい。 	2			
⑧研究発表会の開催	研究発表会	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会同士の連携や情報交換、研究のレベルアップを図る目的で「宮崎の自然合同研究発表会」を開催しているが、平成27年度は9団体が報告し、59人の参加者があった。本館からは動物部門が代表として報告を行った。 	3			
⑨博物館友の会との連携	講師派遣(博物館→友の会)	年5回	講師派遣5回	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は、友の会への支援として、特別展の学習会を4回実施したほか、特別展の内容に合わせたバスツアーと学芸員講座に講師を派遣した。さらに、友の会会員の交流と会員増を図るための「友の会祭り」の開催に協力した。 ・また、友の会会員による博物館支援として、「よろいかぶと着用体験」などの講座支援を3回行っていただいた。 	3			
	講座支援(友の会→博物館)		講座支援3回 計8回					

(5) 情報発信

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「森の通信」は、6月と12月の2回(58号・59号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布した。また、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理は37件、報道機関からの問い合わせに対する情報提供は266件であった。情報提供の主な内訳は、イベント配信会社を通じたWebサイトへの配信が185件、県関係の広報が50件であった。 ・これらにより、本館の取組みが新聞に掲載されたのは、200件を超えた。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の活動・行事についての情報発信がいろいろな媒体で行われていることは良いことである。 ・広報誌「森の通信」は予定どおり発行され、ホームページにもアップされていることは評価できる。また、ホームページは画面も見やすく、努力の跡がうかがえる。 ・イベント紹介のWEBサイトへの配信が185件あるが、観光施設としての側面を意識した発信も期待したい。 	4
	報道処理・情報提供件数	年120件	303件					
②ホームページの充実	更新回数	月5回	4.3回	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の更新回数は、新着情報の提供を中心に月4.3回(年51回)であった。このほか、職員ブログで85件、年度途中に開設した特展ブログで18件の記事をアップした。ブログでは、イベントや博物館講座の情報、民家園の行事、特別展の展示資料の紹介などを提供した。この結果、博物館ホームページへのアクセス数は、年469,114件となったものの、若干目標に届かなかった。 ・平成28年度は、ホームページの新着情報での情報提供を増やすとともに、facebookやtwitterを利用した情報発信に取り組んでいきたい。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい広報予算の中で、学校など関係機関の連携、マスコミやホームページ等の広報手段・媒体との活用により、館としての情報発信に努めていることは十分評価できる。今後は内部評価にあるとおりSNSによる情報発信にも取り組み、来館者・リピーターの確保に努めていただきたい。 ・アクセス数が目標値に届くように、さらなる努力を期待したい。 	
	アクセス件数	年500,000件	469,114件					

(6) 経営

項目	評価指標		27年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	3,640件	<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び団体アンケート、特別展アンケートの収集件数は目標値を大きく上回ることができた。 ・個人アンケートで本館のサービスに「満足した」と回答した方、4つの特別展のアンケートで「良かった」と答えた方の平均は89%であった。 ・アンケートの意見欄に記された施設利用等に関する要望のうち、実施可能なものは迅速に対応した。 ・今後も利用者の意見に真摯に向き合い、館の運営に生かしていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートでは目標値を大きく上回り、満足度も非常に高いことから館員の努力がうかがえる。今後も真摯に利用者に向き合いさらなる努力を期待したい。 ・学芸員の資質向上に関して、今後は学術的な研修の機会を設けていくことが必要であると考え。そのことが総合調査研究のレベルを向上させ、また個別テーマ調査研究の成果を充実させて、展示にも反映されることとなる。 ・専門的な知識を備えた学芸員であるために、一層研修を深めてほしい。そのことが入館者の満足度につながってくる。また、消火活動や地震を想定した避難訓練などよく実施されているが、南海トラフによる地震や津波に対する観客の誘導等の避難訓練も行ってほしい。 ・熊本地震下における博物館等公共施設の状況を検証いただき、今後の本館における利用者はもちろん、文化財等資料に関する危機管理体制の強化をお願いしたい。 	3
	満足度	70%	89%					
②職員の資質の向上	—	—	基本研修 4回 県外研修等 延22名 展示解説員研修 10名	<ul style="list-style-type: none"> ・館内研修は、全職員を対象にコンプライアンス、危機管理などについて年4回実施した。 ・県外研修では、文化財の保存対策研修会や東日本大震災から続く被災文化財保全の研修会等に参加した。 ・展示解説員の館外研修では、えびの市・小林市の自然や史跡を見学した。 ・今後も引き続き課題に対応した館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努めたい。 	3	3		3
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の4月に、全職員を対象に危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象への対処方法や消火器を使用した消火活動等の防災・防火研修を実施した。 ・9月の「防災の日」に合わせ、宮崎北消防署の指導のもと、震度5強の地震を想定した避難訓練を行った。 ・また、民家園において「文化財防災デー」に合わせた放水訓練を2月に実施した。 ・今後も引き続き、非常時に職員が適切な対応を迅速に取れるよう訓練・研修を実施し、危機管理意識と機器操作等の対応能力を高めていく。 	3			